

## 平成25年度 柏崎市刈羽郡生活科教育部 活動報告

部長 小林 克之

### 1 研究主題

「対象や事象にかかわり、学び合う子の育成」～聴き合ったり伝え合ったりする活動を通して、自分の考えを深め広げ振り返る子どもの育成～

### 2 研究の概要

本年度は、平成23年度から3年間、柏崎市刈羽郡学校教育研究会より指定を受けた中通小学校の「生活科・理科」研究発表会への参加を通して研修を深めた。

### 3 研究の実際

<研究の概要>

生活科で育てたい力を「体験と表現活動の連動性を意識して、気付きを広げ深める」と捉えた。そして指導の重点として次の3点を挙げた。

①ストーリー性のある単元開発と子どもが活動をつくりだすための場の設定の在り方

②他教科との合科・関連の在り方

③多様な表現活動の重視とともに「聴く、話す、書く、読む」などの言語活動の充実

これらを踏まえ、【授業づくりの視点から】と【授業を支える学級づくりの視点から】という2つの大きな柱を軸として研究を進めた。

(1) 公開授業 11月13日(水) 第1学年 「生活科」

単元名:「ヤギとなかよし」 授業者 池田 美奈子 教諭

本時の目標:ヤギとのこれまでのかかわりを振り返って、保育園の友達に何を紹介したらいいかを考え、自分のしたことや思い、ヤギの様子を書いたり発表したりすることができる。

(2) 協議会より

【授業づくりの視点から】

①豊かな体験活動の設定・単元構成の工夫

○6か月間の世話をはじめとする様々な体験が単元を貫く柱となっていて、本時の活動への意欲に生かされた。ヤギに対する思い、他者意識が育っていること、教室内掲示の豊富さも本時活動に役立っていた。

②言語活動の充実

○「付箋に書いて貼る」という日頃の活動が本時にも生きていた。「自分は認められている」という安心感につながっていた。

③学習形態の工夫

○手紙を読む場面・意見を言い合う場面・書く場面に応じて場所を使い分けたので、子どもの意識を変えたり集中して考えさせたりすることにつながった。

④教師のコーディネート力の向上

○付箋に付けるシールの色分けはよかった。もう少し大きい方がよい。

⑤観察の技能を身に付けさせる指導の工夫

○対象が近くにいることのよさを感じた。

【授業を支える学級づくりの視点から】

①学級経営の基礎・基本:絆づくりプロジェクト推進

○一人一人の意見が大切にされている。何を言っても大丈夫という温かい雰囲気がある。

②書くこと・聴くこと・話すこと・調べること

○自分の思いをよく書くことができていた。(日頃の成果)

○聴くための約束事ができている。

○「つなげて話すこと=他人の話をよく聴くこと=認め合うこと」である。

### 4 成果と課題

◆今後は、保育園・幼稚園との綿密な連絡・調整、さらにはアプローチ・スタートカリキュラムに基づく具体的な行動連携をさらに強めていくことが必要である。